

■ちーびし

○執筆者紹介

①生年・出身地, ②所属, ③専門領域, ④研究業績, ⑤奄美と関係した活動の順番で掲載しております。

■前利 潔 (まえとし きよし)

- ① 1960年・沖永良部島知名町
- ② 知名町役場
- ③ 奄美経済史, 奄美論
- ④ 「『無国籍の奄美』(『論座』2003年8月号), 「奄美と沖繩, ヤポネシア論の受容の仕方」(共著『地域と出版』2004年), 「農民体質と歴史的背景」(共著『奄美と開発』2004年)
- ⑤ 沖永良部郷土研究会会員, 日本島嶼学会会員

■新里 貴之 (しんざと たかゆき)

- ① 1971年・沖繩県
- ② 鹿児島大学埋蔵文化財調査室助手
- ③ 南島考古学
- ④ 「南西諸島における先史時代墓制の集成」『東南アジア考古学研究会報告』2 2004年9月
「Changes in Exchange Systems in Pre- and Proto-historic Ryukyu Archipelago」
『Anthropological Science』112(3) 2004年12月
「徳之島伊仙町喜念・佐弁砂丘一帯遺跡トマチン地区発掘調査概報」『奄美ニューズレター』15 2005年2月
「南西諸島の墓制(Ⅰ)ー大隅諸島ー」『地域政策科学研究』2 2005年2月

■高橋 孝代 (たかはし たかよ)

- ① 1967年・沖永良部島泊町和
- ② 法政大学沖繩文化研究所国内研究員, 芝浦工業大学, 放送大学, 国土館大学非常勤講師

- ③ 文化人類学
- ④ 「沖永良部島民のアイデンティティと芸能」2002年12月, 早稲田大学文化人類学会, 『文化人類学研究』第3号, pp.166-188.
“Border Identity of Okinoerabu Islanders”
2002年12月, Graduate School of Asia-Pacific Studies, Waseda University, *Journal of the Graduate School of Asia-Pacific Studies*No4, pp.129-158. (英文)
「沖永良部島民のアイデンティティと政治の歴史」
2003年3月, 法政大学沖繩文化研究所, 『沖繩文化研究』第29号, pp.323-377.

■本山 謙二 (もとやま けんじ)

- ① 1973年・静岡県生まれ, 鹿児島育ち, 与論「2世」
- ② 日本学術振興会特別研究員(受入機関千葉大学文学部)
- ③ 社会情報学, 文化研究
- ④ 「唄い崩されるくうた>の経路」『現代思想』青土社, 5月号, 2002年.
「移動の経験によって生成された音と『うた』-1920~30年代の普久原朝喜の活動を中心に」『グローバリゼーションの文化政治』テッサ・モーリス=スズキ, 吉見俊哉編, 平凡社, 2004年.

■山本 一哉 (やまもと かずや)

- ① 1966年・鹿児島
- ② 法文学部経済情報学科国際協力講座助教授
- ③ 国際経済論, アジア経済論
- ④ 「韓国における銀行再編」鹿児島県地方自治研究所『自治研かごしま』(No.78, 2003. 8)。「沖繩・奄美群島の物流と自立化」『島嶼地帯の県境を越えた市町村合併に関する総合調査-奄美群島を事例にして(平成15年度文部科学省科学研究補助金/基礎研究(B)(2)/研究代表者:山田誠)』(2004年3月)

○編集後記

■ 今月号は、2004年11月27日（土）沖永良部島和泊町にて開催された公開シンポジウムの特集号（第2号）です。

表紙には、第1部の研究討論会「歴史・文化・アイデンティティーを奄美から考える」の司会者の前利氏と、報告者の新里氏、高橋氏、本山氏の写真を入れました。

中央の写真は、休憩時間の様子を撮影したものです。会場となった和泊中学校あかね文化ホールの一角に、川上忠志さん（南日本新聞和泊販売所長）が、写真展示コーナーを設置してくださいました。高倉の写真をはじめ、沖永良部の生活・文化等に関する写真、約50点が展示されました。私たち大学関係者はもちろんですが、地元の方々も興味深く御覧になっていたようです。貴重な写真を提供して下さった川上さん、ありがとうございました。

（I）

研究責任者 山田 誠

奄美ニューズレター

発行 鹿児島大学

編集責任者 萩野 誠

AMAMI News Letter

発行日 2005年5月10日